

2006年度 オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業
日本語ユーザのためのOpenOffice.orgに関する開発仕様提案書の作成 概要説明

調査の背景・目的

オープンソースデスクトップ環境の日本における普及には、企業及び自治体などを含む多くのユーザの業務に耐えうる機能と操作性を持った日本語オフィスソフトの整備が必要である。日本語を利用可能で、普及しているOSSのオフィスソフトとしては、OpenOffice.orgがあり、業務利用可能なOSSのオフィスソフトとして標準的な地位を確立しつつある。しかし、日本語を使用するユーザからのOpenOffice.orgに対する改善・開発要望は、まだまとまった技術仕様として整理されている状況ではなく、その多くが実装に反映されないまま取り残されているのが現状である。

そこで本事業では、このような日本語ユーザのためのOpenOffice.orgに関する機能改善要望を既存のコミュニティと連携して調査し、開発仕様提案書(以下、List of Requirements and Specifications)を作成する。

調査の内容

本事業では、日本語ユーザのOpenOffice.orgに関する要望を幅広く収集すると共に、収集した要望に対して、日本語版としての有用性や既存のオフィススイートで活用されている機能かなどを考慮して優先順位付けを行った。また、このような要望の整理・仕様検討を進めて、OpenOffice.orgの機能を改善する検討テーマの洗い出しを行った。こうして整理された検討テーマは、開発仕様提案書(以下、List of Requirements and Specifications)としてまとめると共に、OpenOffice.orgプロジェクトの開発チームと要望実現に向けての協議を行った。

調査の結果

本事業では、以下のように改善開発要望を収集し、優先順位付けを実施した。

改善・開発要望の調査	調査数(件)	
	不具合(件)	要望(件)
企業ヒアリング	159	128
00oQ&Aとの連携による調査	1179	178
コミュニティ掲示板の過去ログ調査	800	4
合計	2138	310

また、List of Requirements and Specificationsとして、合計133項目の機能について整理した。さらに、OpenOffice.orgのコア開発チームを2度訪問し、List of Requirements and Specificationsに基づき協議を実施した。